

令和８年度 第４回生坂村ゼロカーボン推進プロジェクト会議録

日 時：令和８年７月２４日（金）１０時３０分

場 所：村民会館講堂

村長より

- ・ ７月１３日に、毎月恒例の脱炭素事業に関する打合せを行い、本日はその内容のご報告と、今後の事業の進め方についてご協議をお願いしたい。
- ・ 今年度のマイクログリッド事業の進捗状況をはじめ、第１回地域脱炭素移行・再エネ推進事業評価委員会で委員の皆さんからいただいた評価やご意見について、事務局から説明をさせていただく。
- ・ 松本山雅の皆さんには、事務局サポートとして広報や村民意識に関する様々な分析を進めていただいている。その結果を踏まえ、９月頃から周知内容や情報発信の方法を刷新していく予定なので、その点についてもご報告する。
- ・ 今年度の PPA 事業については、オンサイト・オフサイトの両面から計画を進めている。オフサイトでは草尾ぶどう団地で大規模太陽光発電施設を計画しているほか、昭津地区では高津屋森林公園の下側を予定地として、太陽光発電設備の設置を進めている。来週には地元説明会を開催する予定である。
- ・ それぞれの事業が今年度も着実に動き始めている。進捗状況や課題を皆さんとしっかり共有し、脱炭素先行地域づくり事業が引き続き順調に進むよう、ご理解とご協力をお願い申し上げる。

【協議事項】

○令和８年度マイクログリッド事業について

マイクログリッド事業の工事スケジュールと、今後の進め方について説明

- ・ 草尾地区では、犀川を横断する架線工事を秋から１２月にかけて実施する予定。
- ・ 上生坂地区では、登録特定送配電事業の認可後、マイクログリッドへの切替え工事を順次進める。停電を伴う工事となるため、利用者への影響を最小限に抑えながら実施する。
- ・ 役場車庫、防災倉庫、中学校、JA などは認可後に先行して切替えを行い、その後、太陽光発電設備を設置している施設を順次切替えていく。

工事に伴い停電が必要となる施設については、施設の利用状況を十分に確認し、関係者への周知を丁寧に行いながら進めていく。

○令和８年度第１回外部評価委員会について

委員の皆さんからいただいた意見について以下のとおり説明。

- ・ 生坂村の脱炭素の取組みは環境省からも高く評価されており、進捗も他自治体と比べて順調。
- ・ やまなみ荘の木質チップボイラーやデマンドレスポンスの効果を「見える化」して発信するとさらに良い。
- ・ EV 普及に向けては、まず村内の EV 保有状況を把握することが重要。
- ・ 省エネ補助や PPA 事業は、件数だけでなく目標に対する進捗率やパネルの合計出力なども示すと分かりやすい。
- ・ EV 普及には購入補助と充電設備の整備が重要。
- ・ 停電時に太陽光発電と蓄電池が役立つことは、住民にも浸透してきている。
- ・ PPA 契約が難しい高齢者などへの支援策も検討してはどうか。
- ・ 民家向け PPA の導入がここまで進んでいることは先進的で、高く評価できる。
- ・ 生坂村の取組みは、県全体へ発信できるモデル事業である。
- ・ 道の駅への EV 急速充電設備設置については、国・県の補助制度を活用できるので県も連携して進めたい。

委員の皆さんからは、生坂村の取組みを高く評価していただくとともに、今後の情報発信や EV の普及、高齢者への支援などについて、貴重なご提案をいただいた。

○事務局サポート業務（「龍と子」７月号等）について

松本山雅による広報分析の結果について、以下のとおり説明があった。

- ・ 分析では、住民の理解が「制度を知る段階」から「実際に効果を実感する段階」へ移っていることが確認された。特に５月の停電で太陽光発電と蓄電池の効果を実感したという声が多く寄せられていた。
- ・ 一方で、PPA 制度や V2H、株式会社いくさかてらすの役割などについては、さらに分かりやすい説明が必要との分析結果が示された。

- ・SWOT 分析では、生坂村の脱炭素事業は、環境省の脱炭素先行地域として全国でも先進的に取り組んでいることや、地域に合わせた事業展開、住民参加型の推進体制が大きな強みとして評価された。
- ・今後、広報紙「龍と子」は主に高齢者世代に村の変化や暮らしへの効果を伝える内容へ、ホームページは主に現役世代や子どもたちに向けた情報発信・学習コンテンツとして充実させる方針が示された。
- ・村民意識の分析をさらに進め、9月から新たな広報展開をスタートし、脱炭素事業の効果や魅力をより分かりやすく発信していく予定。

専門用語を並べるだけでなく、「暮らしがどのように便利になったのか」「停電時にどのように役立ったのか」など、村民の皆さんが実感できる内容を中心に発信することが重要となる。

○令和8年度 PPA 事業の工程について

太陽光発電設備などの工程について、以下の説明があった。

- ・公共施設や民間施設、一般住宅への設置工事を計画どおり進めている。
- ・公共施設では、高津屋森林公園の工事が7月中の完了を予定し、南部交流センターでは地元説明会終了後に工事へ着手する予定。
- ・民間施設では、JA 松本ハイランド生坂支所の工事を8月上旬までに完了し、新たな事業所への設置工事も順次進めていく。
- ・一般住宅では16件の設置を計画しており、多くの住宅で太陽光発電設備と蓄電池の設置工事が進められている。
- ・昭津下の田地区と草尾上野地区では、野立て太陽光発電所の建設工事を令和8年10月以降から開始し、令和9年にかけて完成を目指す。

今後も計画的に工事を進め、再生可能エネルギーの導入と災害に強い地域づくりを着実に推進していく。

○その他

8月8日（土）に道の駅いくさかの郷で開催する「生坂村合併70周年・道の駅いくさかの郷7周年記念イベント」に合わせ、住宅の断熱改修事業についても普及・啓発を行うと説明。太陽光発電や蓄電池だけでなく、住宅の断

熱性能を高めることも、電気や燃料の使用量を減らし、快適な暮らしと脱炭素につながる大切な取組みとなることを説明。

【意見・質問】

PPA 事業による太陽光パネル・蓄電池の設置件数を増やすため、次のような意見や依頼があった。

PPA 事業の紹介・周知

- ・太陽光発電設備の設置に興味がある方や、話だけでも聞いてみたい方がいれば、ぜひ紹介していただきたい。

→屋根の状況に応じて屋根業者も同行するなど、安心して相談できる体制で対応していく。

野立て太陽光発電の新しい設置方式

- ・一般住宅2か所で、野立て太陽光発電設備の設置を予定。
- ・1か所は、設備の下に物を置くことができる背の高い新しいタイプを採用し、もう1か所には従来型を設置する。

→完成後は写真を活用し、新たな設置方法として住民の皆さんへ紹介していく。

瓦屋根への設置に対する不安の解消

- ・瓦屋根への設置について心配する声があるものの、現在は瓦に穴を開ける工法ではなく、瓦に合わせた金具を使用するため、屋根への負担は少ない。

→瓦屋根でも安全に設置できることを、積極的に周知していく。

広報・営業資料の充実

- ・営業活動では口頭による説明だけでなく、よくある質問や制度内容をまとめたパンフレットやカタログを作成すると、住民の皆さんにも分かりやすく説明できるとの提案があった。

→今後、営業ツールの充実について検討していく。

実際の利用者の声を活用した PR

- ・瓦屋根へ設置した事例や利用者へのインタビューなど、実体験を紹介することで住民の安心感につなげることが良いのではないか。

- 写真や体験談を活用し、より伝わりやすい広報を進めていく
- 松本山雅の広報ノウハウも活用しながら、住民の皆さんの不安を解消し、脱炭素事業のメリットを分かりやすく伝える情報発信を進めていくとともに、制度の内容だけでなく、実際に設置されたご家庭の写真や利用された方の声を紹介することは、検討されている皆さんの安心感につながるため、今後も分かりやすく、身近に感じてもらえる情報発信に努めていく。